

第 21 回市長と話そう会

日時：平成 31 年 4 月 24 日（水）19 時～

場所：市役所 3 階語らい処

参加者：若手農業者 6 名



市民の皆さまと市長が直接語り合う「市長と話そう会」第 21 回目は、若手農業者の皆さんとの意見交換でした。

それぞれの思いや今後の農業について、多くの意見をいただきました。

内容を抜粋して掲載しております。

≪掲載にあたり、一部個人のプライバシーに関する部分などは省略しております≫

■意見交換

（市長）2 期目となり農業に力を入れたいと思っている。農業が活性化しないと、まちが活性化しない。土地の保全、後継者の問題がある。後継者対策をどうすればいいか、持続可能、担い手づくりをどうすればいいか、今日は意見をいただきたい。

（参加者）地元の田の排水が悪く、畑作に向かないため排水対策をお願いしたい。

（市長）排水の話はよく聞いているが、計画もあるので一気にできない。また、将来的に頑張るところに効果的にしないといけない。

（市長）後継者不足に対して、普段感じていること、市として何かできるところは無いかな等教えてほしい。

（参加者）「強い個人」にならないといけないと思う。後継者も「儲かる農業」なら集まる。

（市長）今後どのような農業形態、どういうハードルがあるか、課題は何なのかお尋ねしたい。

（参加者）現在は親が米で自分はきゅうりをしている。今後はきゅうりの周年栽培を行い雇用し、きゅうりは従業員、米は自分ができればと思う。

（参加者）家は米麦牛をしているが、自分は昔から野菜が作りたかった。そのため、米にこだわらず自分がしたいと思うことをした方がいいと思う。

(参加者) 従業員を地元から雇用し、会社を持続させることが地元を守ることにつながると思っている。地元でいないなら外部の人材でもいいと思っている。将来的には空き家利用で県外から定住、雇用ができればと思う。

(市長) 他にも市に要望等あればお話してください。

(参加者) いのしし肉は物産まつり等で出されていたが、一般の人はあまり食べる機会がないので、食べる機会を増やしてみてもどうか。

(市長) いのしし肉をもっと多くの人に食べてもらえるようにしていきたい。

(参加者) 地産地消を推進してほしい。地元のスーパーに行っても地元のものがないのはおかしい。

(市長) まったく同感。以前旅館で地産地消を推進したが仕入れの関係でうまくいかなかった。学校給食の方は、以前よりだいぶ地産地消が進んだと聞いている。何か工夫できないか検討していきたい。

(参加者) 生産量に対して人口が少なく、作物の時期が限られている。また、地元の小中学校に食材を提供したときはキャベツ 2kg (2玉) と少量だったので、持っていく手間の方がかかる。

(市長) 流通の問題に関しては今後の宿題としたい。

まとめとして、市としてはこれから農業をやろうとする人を応援できる体制、また人を育てる体制等を考えていきたい。また、地産地消を進めるためのアイデアはいつでも言ってほしい。皆さんの声を聞いて政策を進めていきたい。